

春の日本銀行見学会

戌亥芳秀（会員）

みなさんは「ニチギン」と聞いて何を思い浮かべますか？お金の管理する大事なところ、銀行の銀行、金融政策を実施するところ、アベノミクスに深く関わっているところ、金利をマイナスにしたところ、黒田さんがトップ、国の機関？ 等々。正

に「群盲像を撫でる」ように、そのイメージはさまざまです。こうした「ニチギン」を知ろうと、会員相互の親睦を図るため、4月12日（水）日本銀行本店と日銀貨幣博物館の見学会を実施しました。

前日の雨とは打って変わり晴天の下、見事な満開の桜に迎えられ、広大な敷地の一角にある北門前に、参加者20名全員が定刻午後1時半前に無事集合。国際空港並みの厳重な持ち物チェックを受け、身分証明書を提示してやっと入館することができました。私たちが案内してくれたのは、入行2年目の方で、笑顔で次々わかりやすく説明してくれました。

まず日本銀行本店では建物の歴史を学びました。国の重要文化財に指定されている本店旧館

は、東京駅の建築家としても名高い辰野金吾博士の監督の下、1896（明治29）年に完成したもので、洋風



◀ 日銀の入口

建築の傑作といわれています。設立当初55人の従業員は現在では4600人に増加し、1日当たりの平均取り扱い金額は約100兆円となっているそうです。昔は多くの銀行員で賑わっていたが、現在では完全システム化（日銀ネット）されているため人影はほとんど見当たらないとのこと。歴代の総裁の肖像画を見た後、重厚な金庫を見学、そして昔は馬車が入ってきたという中庭で集合写真撮影。

プレゼンテーションルームで20分のビデオを見たりお土産を買ったりしてから、一同隣接す

る貨幣博物館へ移動、40分ほど展示物を見ながらお金に関するさまざまな知識を得ました。約2時間の見学を終え、場所を変え京橋の「北海道」にて懇親会を開催、こちらの参加者は18名でした。会長のあいさつの後、和気あいあい、喧々囂々、会員相互の熱い交流が成され、最後に本日の功労者である元日銀副総裁の藤原会員の締めのおいさつで終了となりました。好天に恵まれ、全員けがもなく見学会を終えることができ、とても有意義な一日でした。



日銀の待合室



日銀前の桜